

環境担当者研修会環境法令川下等



- 日 時 平成 20 年 11 月 12 日、11 月 18 日 13:30～17:00
- 場 所 滋賀県甲賀県事務所、ライズヴィル都賀山
- 共 催 滋賀県南部振興局 環境課
滋賀県甲賀県事務所 環境課
湖南・甲賀環境協会
- 参加者南部会場 89 名甲賀会場：59 名 計 148 名
- 対 象 環境担当の初級者～ベテラン
- 研修テーマ “環境リスクマネジメント”

今年度 2 回目になる（昨年度より 5 回目）環境担当者研修会は①環境マネジメントシステムをどのように活用したらいいか②環境事故が起こった背景から学ぶ③環境事故防止診断チェックシートによる自己管理④管理面からのリスク管理⑤水路図作成による被害拡散防止対策の流れで研修しました。

受講者からは、事故事例の紹介は今後も続けてほしい。また“環境事故防止診断チェックシート”は実業務で経験したノウハウの蓄積であり、早速自社に持ち帰り活用できると好評でした。

■内容

1. 環境事故防止のための環境マネジメント

講師：滋賀県南部振興局 環境課 水嶋課長

ISO14001 や EA21 を取得していても環境事故は起きる

工場における環境マネジメントシステムとして ISO14001 や EA21 が運用されているが、それらの認証を取得していても環境事故は起こっており、失敗が繰り返されている。工場の立ち入り等をする、特定施設の届出等に関する漏れが多い。これは単なる届け出忘れということだけでなく、施設の環境側面（リスク）を把握していないということである。



「公害防止ガイドライン」の認識不足

一方、経産省より「公害防止ガイドライン」

http://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/kankyokeiei/environmentguideline/simple/directivity.html

が出されているが、実際の利用状況は 38 パーセントと認識が低い。活用されていない理由は ISO14001 や EA21 により独自のルールが確立されているので必要がないとのことだが、環境事故の未然防止に確実に機能するかどうかの観点での点検が必要。

ISO14001 や EA21 と公害防止管理者制度と相互補完が必要

ISO14001 や EA21 は自主的活動のよりどころとして規定されたものであり、認証そのものが目的化され、実質的には機能していないところが多い。公害防止管理者制度が公害防止に最低限必要な組織、配置する人の技術的な能力等について、具体的な規定や基準があることに対して、ISO14001 や EA21 にはその

基準がない。公害防止管理者制度と相互補完し、整合性が取れていなければ環境事故を防ぐことができない。

公害防止組織の整備に関する法律の詳細の入手方法

湖南・甲賀環境協会発行の環境管理の手引きや横浜市の環境創造局 HP 等から入手できる。また、実務上でのリスク管理には滋賀県琵琶湖環境部発行の“環境事故防止診断チェックシート”“水路図”などが有効である。

公害防止に関する環境管理のガイドライン”の特に重要な8つの確認ポイント

http://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/kankyokeiei/environmentguideline/downloads/kougaiboushi_QR.pdf

効果的な環境管理のために

- ①身の丈に合った、システムを運用する。またそれを可能にする組織、人材、経費が必要。
- ②コンプライアンスはシステムのすべての過程において配慮する。
- ③公害防止管理者制度と ISO14001 との整合性に配慮する。
- ④リスクの存在とその大きさを見抜く目を養う。
- ⑤どこの時点で失敗したか、根本的な原因の追及と対応。



2. 環境汚染事故発生の背景について

講師：滋賀県甲賀県事務所 環境課 西山主幹



平成 16 年から平成 20 年にかけて滋賀県南部振興局、甲賀県事務所管内で発生した、環境事故の状況と背景、対策について説明いただき、油等流出事故防止に関するポイントの説明いただきました。

3. 環境事故防止自己診断シートによる自主管理

3-①施設編

講師：NPO びわ湖環境 見館 徹氏

“環境事故防止診断チェックシート”は行政の立ち入り調査時に配布されています。

この環境事故防止診断チェックシートは実業務で経験されたノウハウの蓄積で、2 年以上かけてまとめられたものです。

実際手にすると、かなりの量があるので、工場をチェックするには相当の時間も要します。

しかし、経験の少なさによる無知や不注意から環境汚染事故を起こすと、膨大な損害だけでなく、企業イメージのダウン、結果企業の存亡にもつながります。

そうならないために「なぜチェックしないといけないのか？」という視点から、経験の浅い方にも理解できるように、事例や対策を写真を交えて説明がありました。

環境事故を起こさないために、各工場で作成されている管理マニュアルに今回配付しました“環境事故防止診断チェックシート”と行政の工場立入の前に記入する“工場等立ち入り調査票”とをあわせて日ごろから管理をしてください。





3-②管理編

講師：NPO びわ湖環境 池田 浅右衛門氏

管理面での環境リスク管理について、どのようにしたらいいか、組織、法の遵守、緊急時の対応、内・外部とのコミュニケーションの観点より具体的に説明いただきました。



3-③水路図編

講師：NPO びわ湖環境 落 久夫氏

湖南・甲賀環境協会では4年前に、会員に水路図の有効性をうったえ、作成を呼びかけ、約100社が一級河川や琵琶湖につながる雨水の排水路を作成いただきました。

作成したことで、環境事故が起こったが被害拡散が防げてよかった、緊急備蓄資材が有効に使用できた、利害関係者への連絡がすぐ出来て被害拡散を止められた、この水路図作成がきっかけで、地域住民の方々とコミュニケーションが取れた・・・など様々な反響がありました。

その後4年経過しましたので、落さんより環境情報交換会での説明に引き続き、改めて水路図の有効性、重要性を説明いただきました。「うちは重油を使用していないから油の流出事故の心配はない・・・」なんて言っておられる方もありましたが、納入業者の車両からガソリンやオイルが漏れて環境事故につながることはたびたび起こっています。

今一度先手のリスク管理の一つとして、雨水の流れる先の河川を調べて水路図を作成されることをお勧めします。

■まとめ

滋賀県南部振興局 甲賀県事務所 環境農政部中村 部長



世間では食品の安全性について騒がれており、WHOの基準値にしたらごわずかな、健康に害のないものでも、一旦市場に出回ると全数回収などの処置が余儀なくされている。

これは環境についてもいえる。

河川や土壌への汚染物質の規制基準は上回っていなくても、住民にとっては汚染物質自体が許さない、というのが社会常識になっており、今まで許容されていたものが許されなくなってきた。

一度悪いことが起きると企業イメージはダウンする。今回紹介された“環境事故防止診断チェックシート”を

検討され、基準を守るというだけでなく、一滴も汚染物質を出さないという気持ちを基本に業務をしてほしいとのことでした。

今回の研修内容は研修内容を抜粋・編集したものです。
紙ベースの資料をご希望される方は郵送いたしますので（会員様のみ）、事務局までご連絡ください。

次回の企業担当者研修会は、1月20日、1月28日です。

土壌汚染対策について改正滋賀県公害防止条例との関係で研修を予定します。

次回の研修会にご要望のある方は湖南・甲賀環境協会 事務局までご連絡をお願いします。

Konan99@poppy.ocn.ne.jp

湖南・甲賀環境協会
事務局